

2024年10月13-14日 自転車とツーリズム・まちづくり研究会南房総サイクリング環境
ヒアリング・実走調査報告書（野嶋、飯塚、塚本参加）

●ヒアリング

南房総の海岸線は2021年に指定されたナショナルサイクルルート（NCR）の太平洋湾岸自動車道のルートがある。ルートの起点である銚子港から東京湾を挟んだ対岸の久里浜港に渡る渡航拠点の金谷港までの219キロをカバーしている。今回の視察では、千葉県ルートの一部である南房総市や館山市を走行した。また、千葉県のサイクリング振興を担当している千葉県サイクリング協会（CCA）などの関係者からヒアリングを実施した。

ヒアリングの対象となったのはCCAの地引氏、前CCA南千葉支部長の網代氏、そして、地元南房総地域おこし協力隊としてサイクリング環境の整備に取り組んできた目黒氏の3人である。

CCA側からは主に以下の点が聞き取りで得られた知見である。

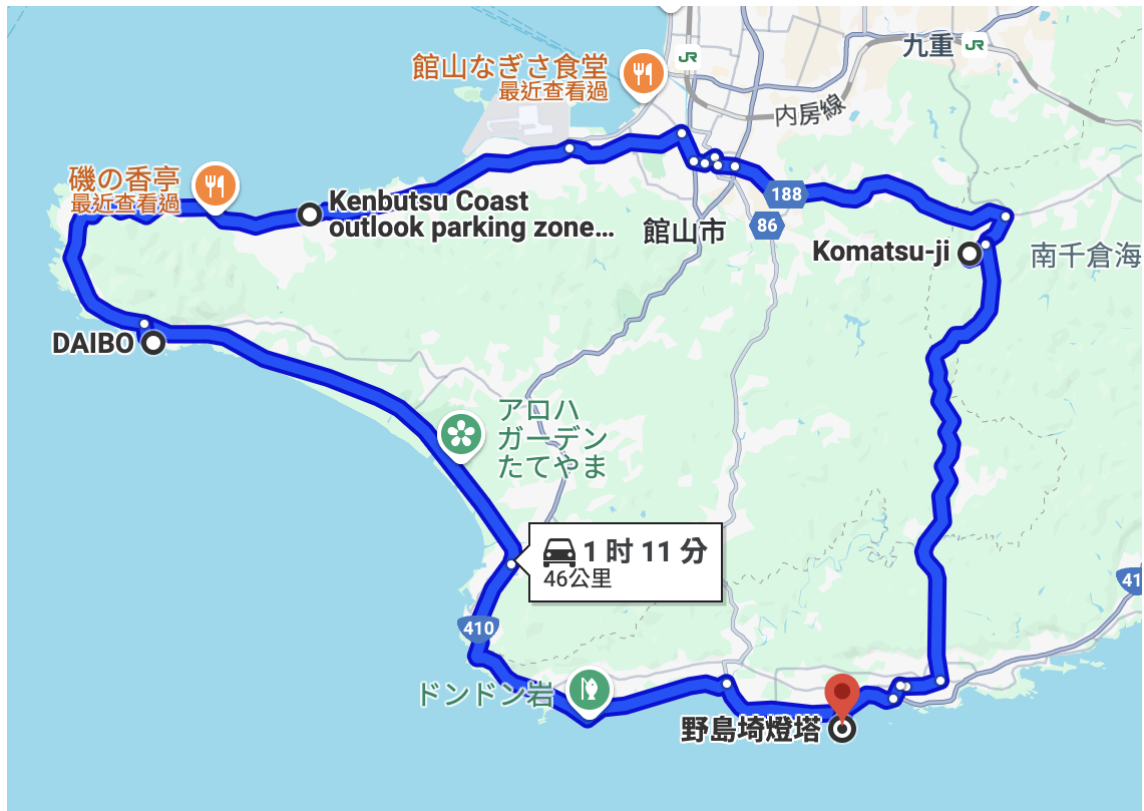
- ・NCR指定後、千葉県庁から会議に呼ばれることはあるが、実質的な盛り上げに役立つ支援を得ることはほとんどなかった。ベースとなる拠点を作って車に自転車を積んでくる観光客などを受け入れ体制を作りたいと提言している。
- ・NCR指定でサイクリング客が増えたかという点とそうした実感はあまりない。
- ・NCRのコースの中で、金谷港に近づくところは海岸に沿って国道が走っているが、道路が狭くトンネルが多いので少々危険である。
- ・房総半島は高い山がなく、路面がフラットで、一年中気候がよく、凍ることはない。信号は少なく、直線も長いという恵まれた走行環境がある。首都圏からも近いので自転車の聖地になる余地はあるが、情報提供ができていない。
- ・CCAとしては農業や漁業が盛んなので、ライド&グルメのイベントを積極的に仕掛け、市町村とタイアップしてイベントをしかけている。菜の花サイクリングという大きなイベントがあったが、いまは開催していない。
- ・JRと協力してBBベースを活用したイベントをやると、BBベースは満員になることもある。

また目黒氏は、ヒアリングの会場となったサイクルカフェ（Bicycle & cafe FeAl、南房総市）を今年オープンし、店ではレンタサイクルも提供している。目黒氏の協力隊としての3年間の取り組みについては詳細な資料が提供され、そちらを参照されたい。



●実走に関する所見

野島崎灯台を起点に、海岸沿いに館山市を經由し、ヒルクライムを小松寺まで行ってから再び山を下って海岸線に降りて野島崎灯台に到着した。全行程およそ 50 キロ、4 時間ほどの走行時間となった。走行環境は総じて優良で、路面の整備もしっかりしていた。自転車用の矢羽は時折見かけるぐらいで密度という点ではそれほど多いとは感じなかった。自動車のマナーも悪くなかった。一方で、NCR の表示は途中の道の駅では見かけたが、NCR の表示は路上ではあまり見られなかった。総延長 1200 キロという NCR の中では群を抜く長距離のルートが売りというのであれば、起点の銚子港から何キロ、終点の和歌山市まで何キロという表示があったほうがロマンを感じられる。当然、金谷港まで何キロという目安の表示が不可欠だが、それもなかったように感じた。昼食ではサイクリストが立ち寄りやすい駐車場がある洲崎灯台そばの見晴らしのいいレストラン（磯之香亭）で食事をとった。地産の海鮮料理をリーズナブルな価格で提供しており、サイクリスト向きの店でもあった。もともと昼食をとる予定だった店（漁港食堂だいぼ）では混雑のため入れなかったがサイクルラックが置かれていた。



東京に戻る際には、金谷港から久里浜港までをフェリーに自転車を積み込んで移動した。休日ということもあって我々以外にも 10 名ほどのサイクリストが乗船していた。自転車は自動車駐車スペースの傍に係留して運行中は客室デッキに乗船している。NCR とフェリーがタイアップしているという表示はなかったが、久里浜港には降車場所に NCR のマークが大きく路面に掲示されていた。フェリーでの移動は通常の自転車旅にはない魅力なので、東京湾横断もこのルートの魅力であるともっとアピールできるはずである。

